

ペタンク通信

北海道ペタンク協会
No.82 2013年7月
発行責任者 上杉晃央

◇◇◇第25回全道高齢者ペタンク大会◇◇◇

10月高知県で開催される第26回全国健康福祉祭(ねんりんピック)への出場を目指し、16チームがベテランの技を競いあった。

予選を勝ち上がった8チームによる決勝戦は、ベスト4に池田3、北見が駒を進めた。十勝ワインGは、1回戦森・むかわに11対7、準決勝十勝ワインDに11対3、決勝はチーム滝口と対戦し11対7で勝利し、初の代表権を得た。

6月2日札幌市(政令市)の高齢者大会は12チームが参加し、農試公園屋外ペタンク場で開催された。プラドチームの柿崎英男・柿崎洋子・沼田昭宏が代表権を得た。

◎日時	5月26日	◎場所	安平町ときわスケートリンク内グラウンド
◎出場	池田10・北見2・美幌1・安平1・森、むかわ1・森、士別1計16		
◎成績	優勝	十勝ワインG	久保紀子・高木恵美子・小野田義則
	準優勝	チーム滝口(北見)	滝口洋祐・大野智也・廣木良子
	第3位	十勝ワインD	石井達雄・田中謙一・林 博子
	第4位	十勝ワインB	納 謹也・香田 昇・香田准子

◇◇◇第14回ホスピタリティー安平ペタンク大会◇◇◇

晴れ渡ったペタンク日和に恵まれ、全道から52チームが集い今年第4戦目の熱戦が展開された。ベスト8に池田2、むかわ2、士別2、美幌、札幌の強豪チームが勝ち進む。

池田ピエ・タンケは、1回戦は追い上げられるも11対8で振り切り、2回戦11対4と夫婦のチームワークを活かし順調に駒を進め、3回戦11対2と勢いを増し、準決勝11対4、決勝は札幌ソレイユCと11対5で安定した力を発揮し、栄冠を手にした。

前日午後には磯野道事務局長を講師に50名程が参加して講習会が開催された。8名程度で班を編成し、アトリエに分かれて6mから9mの投球サークルに入り、ポワンテ・ティールを試みた。方向性と距離感の確認、投球リズム、ペタンク仲間とのペタンクのおきてなど普段の練習では体験できない講習に真剣に取り組んでいた。

また、交流会は手作り料理に舌鼓を打ち、恒例のペタンクゲームやペタンクダービーにも熱が入り、ペタンク談義も盛り上がり親睦が深められた。

◎日時	6月9日	◎場所	安平町ときわスケートリンク内グラウンド
◎出場	池田13(6)・札幌12(5)・むかわ6(5)・北見5(2)・美幌4(2) 森4(1)・安平3(2)・士別2(2)・白老2(1)・美幌札幌1 計52 ※ ()内は決勝進出		
◎成績	優勝	ピエ・タンケ(池田)	堀田 和 信・堀田 七三子
	準優勝	ソレイユC(札幌)	中村 寿 司・藤井 舞 姫
	第3位	マルシェ士別	佐々木 正 徳・矢 田 孝
	第4位	K・Y 士 別	内海 憲 ・堂 山 幸 生

◇◇◇第19回北海道オホーツクオープンペタンク大会◇◇◇

オホーツクブルーの快晴に恵まれ、初夏の暑さの中55チームが試合に臨んだ。ベスト8に池田3、美幌2、むかわ、北見、安平の強豪チームが進出。池田ピエ・タンケは1回戦11対3、2回戦11対2、3回戦11対4と安定した力で順調に駒を進め、準決勝美幌・佐々木を11対9の接戦で破り、決勝はむかわに11対4と夫婦のチームワークを発揮し優勝、先のホスピタリティー安平大会に続く2大会連覇に輝いた。

池田協会は、今年の公式戦5大会中今大会で4回目の優勝と輝かしい成績をあげ、池田旋風を止められるか他協会の奮闘が望まれる。

大会前夜恒例のオホーツクビール園での交流会は、日本初の地ビールをぐいぐいと飲み干しながらペタンク談義にも熱がこもった。

◎日時 6月23日 ◎場所 北見市川東河川敷公園

◎出場 池田21(11)・美幌8(6)・北見8(1)・札幌5(1)・むかわ5(4)
安平5(3)・森1(1)・安平北見1・札幌むかわ1(1)
計55 ※()内は決勝進出チーム数

◎成績 優勝 ピエ・タンケ(池田) 堀田和信・堀田七三子
準優勝 むかわ石川・中道 石川英毅・中道絃一
第3位 北見YK 近藤昭彦・吉川幹子
第4位 美幌・佐々木 佐々木初恵・松木光茂

「(仮称)ベテランペタンク大会」池田開催決定

日本協会は今年から各ブロックに開催費用の一部を交付してペタンクのベテラン(高齢者)を対象とした大会を行うことを6月総会で提案決定した。白老協会から新規大会の開催が難しいとの回答を受けて、北見の大会時に理事会を開催し、池田協会に開催を要請。9月29日開催の報告を受け、今後開催要項が決定次第、各協会宛案内される予定。多くのベテラン選手(60歳以上)の参加を期待しています。

*** 日本協会定時社員総会概要報告 ***

6月9日東京都で社員総会が開催され、北海道からは正会員の中道絃一氏が出席。24年度事業報告、収支決算報告、中国ブロック選出理事に古藤義弘氏の補充選任が承認された。

確井会長から国際大会への出場確保のためJPBF(日本ペタンク・ブル連盟)を暫定的に組織し、国際連盟の理事会で4月13日日本を代表する団体として正式に認める旨の通知があったことの報告。本件の取り扱いの動議が提出され、暫定的措置として賛成多数で承認された。25年度事業計画及び収支予算の主なものは次のとおり。

*新規東北ブロック大会開催

*フランス人招聘講師による一般講習会(全国2箇所)

*ブロックベテラン大会開催支援 *ジュニアクラブ活動支援

*国際大会派遣(世界ジュニア選手権・世界女子選手権・アジア選手権)

広報活動の充実のため「広報委員会(上杉委員長・副島副委員長)」が設置され、各ブロックから1名の委員及び各都道府県協会から1名の通信員の推薦依頼の通知を受けた。道協会は磯野事務局長を委員として推薦しました。

15年の長期にわたり日本協会の事務局員、事務局長(平成19年)として活躍された小成事務局長は6月末で退職。7月以降に日本協会の業務を委託し、競技規則、ルールハンドブックの改定、資格検定試験問題作成、ランキングポイント集計等の委託業務を担当。今後は選手としても大会出場、北海道のジュニア指導に取り組む決意と長年の親交にお礼の挨拶を述べた。